



令和6年度子供の読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣表彰決定！ **大仙市立仙北図書館**

子供が読書活動を行うための意欲を高める様々な活動が認められ、大仙市立仙北図書館が優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞することになりました。



美郷町オリジナル絵本 **「ミサトとセッカのだいぼうけん」** 発行！

美郷町は、まちの将来を担う子供たちに向けて、この度「美郷大使」で絵本作家の永田萌氏によるオリジナル絵本を発行しました。詳細については、同町のホームページを御覧ください。

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の連携・協働 30(最終号)

地域づくり・人づくりのプランニングは焚き火と同じ!?

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

最近、「持続可能な・・・」という枕詞を見聞きする機会が多くなりました。

この枕詞を引用すれば、学校教育も社会教育も、究極の目的は「持続可能な社会の担い手を育成すること」にあるのかもしれませんが。

これまで管内市町村の生涯学習・社会教育の取組、中でもコミュニティ・スクールや地域学校協働活動推進の現場については、関心をもって見てきたつもりです。

そのことを振り返った時、私は数年前に見たあるアウトドア雑誌のコラムを思い出しました。

そのコラムは、およそ次のような内容だったと記憶しています。

-----◇-----

どの山里にもよい薪が豊富にある。けれども、スターターとなる付け火の扱いが間違っていたり、薪が乾くのを待ちきれずに燃やしてしまうと燻らせたり、とても迷惑な焚き火になってしまう。

うまくいかない地域づくりや人づくりというのは、例えて言えばそんなイメージだ。

このままでは暖がとれないと応援を頼んだら、セントラルヒーティングや羽毛布団を持ったセールスマンがやってきた・・・

このような、的外れな地域活性化支援策

も、これまでの‘まちおこし’が失敗してきた原因だろう。

-----◇-----

地域の人々のやる気に火を付ける仕事とは、薪をたくさん背負ってこることでも、自分が見事に火をおこしてみせることでもありません。

地域の人たちに燃焼の原理や暖の取り方の原則を伝え、自力で火を維持する大切さや楽しさを伝えることです。

これまでの5年間で見た市町村の生涯学習・社会教育に携わる皆さんは、そのあたりの本質を心得たプロフェッショナルばかりでした。

社会教育の取組は、煎じ詰めれば「いつか花咲く」ことを夢見て、地道に土壌づくりを進めることにあります。

今、社会教育アドバイザーの任を終えるに当たり、地域づくりや人づくりのプランニングは、焚き火の技術に何となく似ている・・・。

ふとそんなことを思い出しました。

学校・家庭・地域の連携・協働をテーマにお届けしてきた私のアドバイザーコラムは、今号で最終回となります。これまでの御愛読に、心から感謝申し上げます。

